

トレイル・オリエンテーリングの世界

小山 太朗

トレイルOとは

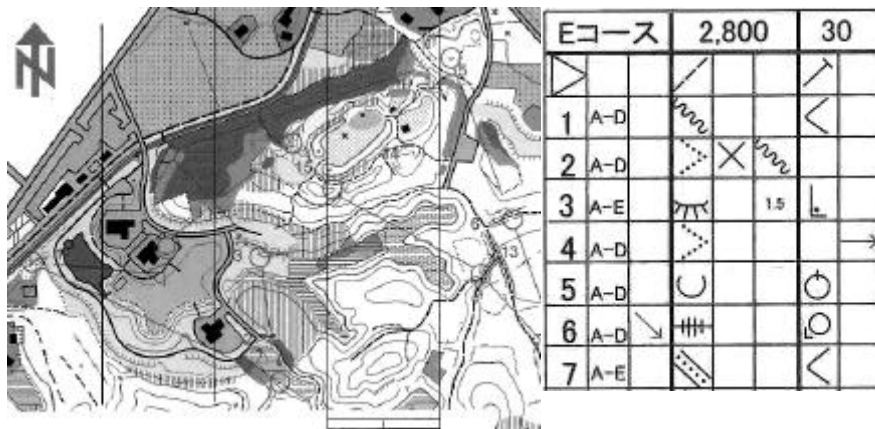
皆さんはもう何度か「トレイルO」の名前を耳にされたことでしょう。かなりのオリエンティアは秋田でのワールドゲームズやインカレ会場、この夏の作手でのWOC1000 日前イベントのときなどにチャレンジされて、なかなか面白いオリエンテーリングだと気づかれたと思います。

1980年代の終わりにスウェーデンで始まったトレイルOは、フットOのランナーのように森の中を走れない、移動面での障害をもつ人たちのために考え出されたものですが、今では障害の有無にかかわらず、性別・年齢別の区分も無く、参加者全員が平等な条件のもとでオリエンテーリングの知的能力を競い合うという、魅力あるスポーツに変身しました。

トレイルOは、まさしく Sport for All そのものとなり、IOFのかかげる4本柱(フット、スキー、マウンテンバイク、トレイル)のひとつとして、急速に世界に広がっています。



複数のフラッグから正しいものを選ぶ



今夏のクラブカップに併設された作手トレイルOのコース(抜粋)

競技方法は?

コース上に示されたコントロールを順番に回るのはフットOと同じですが、障害者も参加することから、フットOのように森の中には入りません。車椅子や松葉杖の競技者が安全に通れる小道をたどりながらコントロールを回り、制限時間内にゴールします。タイムレースではありません。

フットOではコントロールにあるフラッグは1つですが、トレイルOの場合はコントロールには2~5個のフラッグ群が設置されています。複数のフラッグの中から、コントロールの円の中心にあって、位置説明と合致するフラッグはどれかを選び出します。コントロールから離れた小道から地図を熟読し、地図と現地を照合します。地形や地物、特

徴物などを確認し、位置関係を判断し、あるいは距離を目測し、正しいひとつのフラッグに絞ってゆきます。つまりトレイルOの特徴は、地図読みの力量が試されるオリエンテーリングだということです。北欧で"Pre-O"=Precision(精密な)Orienteeringとも呼ばれる理由はここにあります。

コントロールに特徴あり

コントロールは小道から5~40mほど離れた場所に、車椅子の目線から判断できるように設計されています。フラッグの判定にはコンパスも使用しますが、手の不自由な競技者もいますから、ベアリングを回すようなあまり複雑な操作は必要とはしないのが普通です。通常は地図を正置するだけに使用します。

複数のフラッグの中から1つを判断したら、チェック・カードに自分専用のパンチでパンチングします。ミス・パンチ、ダブル・パンチは認められません。リザーブ欄もありません。正しい判断であれば1ポイントの獲得となり、高得点者が上位となります。

上級者向けには、全部のフラッグの位置が正しくない、「正解なし」のコントロールがあったり、同点者内でさらに順位付けをするため、コース上のある場所で、いきなり渡された地図を読んで何秒で回答を出せるか、その時間を計るタイム・コントロールというのを設けたりします。

地図はどんなもの？

地図は 1:5000 の縮尺が国際標準ですが、一般的には 1:3000、1:4000 などの大縮尺のものが使われることが多いようです。フットOよりもさらに詳しく細かい地図表現が求められるのがもうひとつの特徴です。地図はもちろん ISOM2000 の規定に基づいて作図されます。面白いのは、通行可能度のかわりに透視可能度(見通し



介助は移動時のみ、フラッグ判定は自分でやる

の良し悪し)が使われます。初心者や入門編としてはパークO用の地図がよく使われますが、トレイルOといえども森のスポーツであり、本来は自然の中のチャレンジャブルなコースが求められます。

これからのトレイルO

あのオーリンゲンにもトレイルOの部があり、5日間どっぴりとトレイルOにひたることが出来ます。目を輝かせながら車椅子を自在に操って、あるいはエスコートに介助してもらいながら、健常者と競い合う障害者の姿には、ある種

の感動すら覚えます。

北欧に始まったトレイルOは、今では世界各国に急速に広がりつつあり、国内選手権、北欧選手権、ヨーロッパ選手権などの地域大会やワールド・カップなどは毎年開催されるようになりました。わが国でも 1998 年に横浜で初めてのトライ

アルが行われ、1999 年には障害者を対象とした初めての大会が神奈川県平塚市で開催されました。以来、各地でトライアル、講習会が数多く開催されるようになって、トレイルOの名前は徐々に日本中に浸透されつつあります。

2004 年からはスウェーデンを皮切りに、トレイルOの世界選手権大会(WTOC)もフットOのWOCに併せて開かれようとしています。確定ではありませんが、2005 年には日本での開催が予定されています。障害者と健常者の世界のオリエンティアが、手をつなぎながら入場行進する姿を日本で見る事が出来るかも知れません。

みなさんの、トレイルOに対するよりいっそうの深いご理解とご援助をお願いいたします。

(日本トレイルO研究会)



海外ではスキーOテレインを使う本格的なものも

これからのトレイルOイベント(抜粋)

02/11/30-12/1 トレイルO基礎講習会(埼玉県入間市) 問合せ:日本トレイルO研究会(田中): FZA05731@nifty.ne.jp

02/12/15 第2回ASKトレイル・オリエンテーリング大会(ASK大会併設)(愛知県) 問合せ:愛知OLC(野口): n-taka@mtj.biglobe.ne.jp

03/01/未定(1泊2日) トレイルOコース設定講習会(仮称)(埼玉県) 問合せ:日本トレイルO研究会(小山): taro-k@xb3.so-net.ne.jp

03/01/12 千葉OLK30周年記念大会(LoopO、トレイルO)(千葉市) 問合せ:千葉OLK(石井): tachangi@gw4.gateway.ne.jp

03/03/09 インカレ併設大会(場所未定) 問合せ:日本トレイルO研究会(高橋厚): atsushi-t@mti.biglobe.ne.jp

03/04/29 トレイル・オリエンテーリング九州大会 in 大村野岳湖畔(長崎県大村市) 問合せ:長崎県協会(仲尾): medaka@canal.ne.jp